「選ばれるまち」「住み続けたいまち」亀岡を目指して
−市民力で未来を拓く−

平成30年度　亀岡市の予算

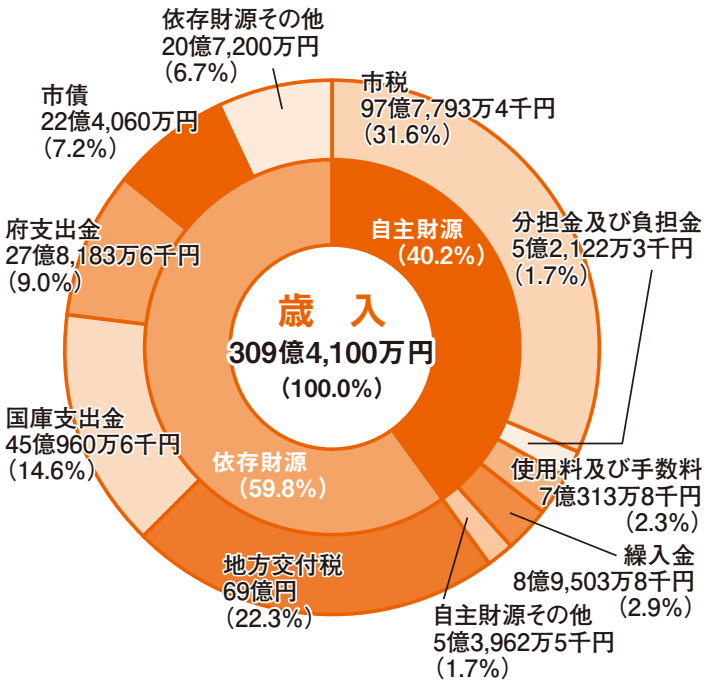
予算総額 **587億7,922万円**

一般会計　309億4,100万円

特別会計　278億3,822万円

※一般会計は、市が行う事業の大部分を占め、皆さんから納めていただく市税や地方交付税などが主な財源です。
※特別会計は、特定の事業を行うための会計で、主に保険料や使用料などの収入を財源とします。

平成30年度の当初予算額は、「第4次亀岡市総合計画〜夢ビジョン〜」後期基本計画の着実な具現化を目指し、総額587億7,922万円を計上しました。
ここに、予算の概要を説明します。

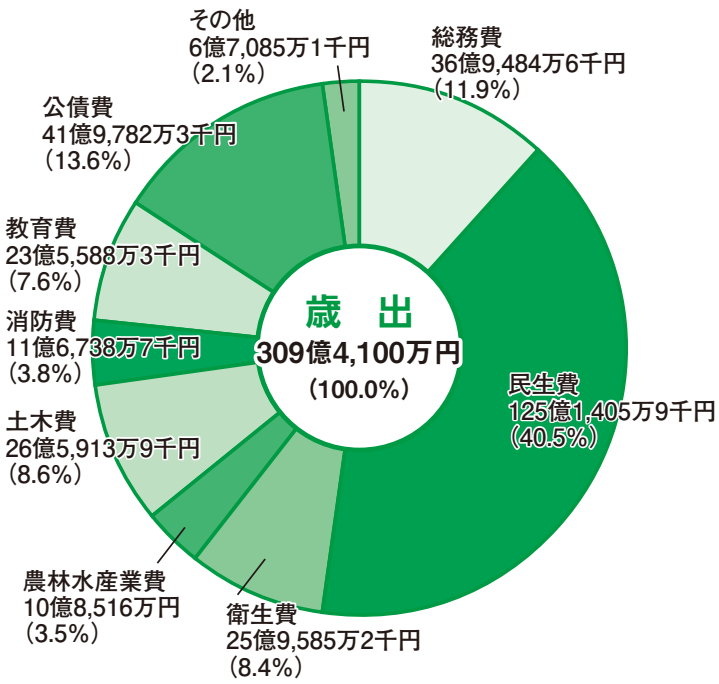


歳入

持続可能な行財政運営に向けて

歳入では、市民税などを中心とした市税は昨年度比0・8%増の97億7,793万円を見込んでいます。また、地方交付税は、同比1・4%減となる69億円を見込みました。

ふるさと納税（京都・亀岡ふるさと力向上寄附金）の大幅な増額を見込むなど、寄附金は同比98・5%増となる2億10万円とする一方で、市の借金にあたる市債は、22億4,060万円（同比48・7%減）と大幅に抑え、今年度末の市債残高は415億9,100万円と、前年度から約17億円の減少が図れる見込みです。また、財政調整基金からの取り崩しを3億円に抑え（同比65・9%減）、持続可能な行財政運営を視野に財政健全化を進めながら財源の確保に努めています。



歳出

子育て・教育施策の充実、安全・安心なくらしの提供と、まちの新たな魅力を発信

歳出では、子どもたちの生命・健全な成長を確実に守るための子ども家庭総合支援拠点の設置をはじめ、公立保育所および民間保育園の利用者支援の充実、放課後児童会の全校・全学年での実施および開設時間の延長、小学校への外国語教育支援員の配置、地域未来塾の実施など、子育て・教育で憧れのまちを目指します。

また、セーフコミュニティ・セーフスクール活動の推進、Jアラートおよび新たな防災行政無線の整備、JR千代川駅バリアフリー整備、運動公園体育館の空調整備、手話言語及び障害者コミュニケーション条例の制定に伴う事業など、市民の皆さんの安全・安心のさらなる推進に取り組みます。

さらに、「京都スタジアム（仮称）と京都・亀岡保津川公園を活かしたまちづくり」をテーマにしたシンボルプロジェクトの始動、ふるさと力向上寄附金を活用した明智光秀像の建立、「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」プロジェクト、移住・定住促進施設の開設、「森のステーションかめおか」のグランドオープン、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン事業など、まちの新たな魅力を発信する事業を展開します。

そのほか、ふるさと納税のさらなる増収、電力の地産地消に向けた取り組み、庁舎照明のLED化、通年議会の導入など、健全で効率的な行財政運営を目指すとともに、市内バス交通の充実、安全・安心で快適な道路の整備など、市民の皆さんの生活の利便性の向上に重点を置いた予算編成としています。

市民1人当たりのサービスは、いくらになるの？

市の予算を、市民一人当たりの予算として考えた場合の収入額とその使いみちをお知らせします。（平成30年2月1日現在の人口89,693人で割りました。）

1人当たりの市の予算は、（一般会計歳出）約34万5,000円

支出								
子育て支援やセーフティネットなど社会生活を保障するための予算	健康のための市民健診や快適で衛生的な生活環境を守る予算	地産地消の推進やエコ農業など農林水産業の元気づくり予算	にぎわいと活気を生みだす観光・産業の振興と雇用の創出確保予算	生活を支える道路整備などのまちづくり予算	文化の振興と将来を担う子どもたちを守り育てる予算	生命・財産を守る消防・防災のまちづくり予算	借入金（市債）の返済	その他の予算（窓口業務、選挙や統計など市の業務と議会の運営のための費用を含む）
約13万9,000円	約2万9,000円	約1万2,000円	約4,000円	約3万円	約2万6,000円	約1万3,000円	約4万7,000円	約4万5,000円

収入				
市民税や固定資産税など市の税金	国や京都府からの補助金・交付金	借入金（市債）	貯金の取り崩しなど	その他の収入（家庭ごみ等のごみ袋代などの使用料、保育料などを含む）
約10万9,000円	約18万1,000円	約2万5,000円	約1万円	約2万円

【亀岡市の借入金（市債）】
市民一人当たりの借入金の残高は、29万8,931円（平成28年度末現在高合計約268億1,200万円：臨時財政対策債除く）となっています。
後年度に借入金に対しての国からの補てんなどがある優良なものの活用を基本とするなど、借入金残高の減少を図っています。

【亀岡市の預金（基金）】
市民一人当たりの預金の残高は、2万8,430円（平成28年度末現在高合計約25億5,000万円）となっています。
平成30年度予算では、柔軟な活用が可能である預金（財政調整基金）を、市民一人当たり3,345円（平成30年度当初予算額3億円）取り崩しています。